

同じくベネチアから継承された問題に、南北問題がある。首脳個人代表の作成した報告書は、とくに本年九月にメルボルンで開催される予定の英連邦首相会議と十月下旬にメキシコで予定されている南北サミットを念頭に置いて結論を出しており、各国首脳の間には有益な論議をひき起こすことが期待できる。南北問題はカナダが一貫して重要視してきたテーマである。

南北問題の中でもとくに重要な分野として途上国に対するエネルギー援助の問題がある。新規および再生エネルギーに関する国連会議を今年の八月に開催するという提案、国際復興開発銀行（世銀）にエネルギー担当附属機関を設置する提案も出されている。

次に食糧問題も今日の重要課題として見逃すことができない。世銀では、現在のストック状況、今後の生産の見通し、いわゆる中進国の需要パターンの変化等から見て、今後数年間にたとえば北米に不作が二回起こるだけで、世界は重大な食糧危機に陥る可能性がある、との見方をしている。

また多くの発展途上国における難民の苦難は、より大きな社会不安のひとつの徴候に過ぎないといえ、国際的不安定の一要因であり、人類の良心をかき立てる痛切な問題でもある。したがってサミット参加国は、これまでと同様、この問題の解決に率先して当ることになるだろう。最後に、西側サミットの焦点が、一連の南北問題を含めて、参加国およびその

他の世界各国が直面している主要な経済問題にあることは疑いの余地がない。しかし、政治問題と経済問題は全く別個の問題ではない。自由世界の重要な政治問題、特に全般的な東西関係は、経済の健全と繁栄に不可分の関係を持っているからだ。このように重要な政治問題に対するコンセンサスの欠如は、自由世界の弱体化を招きかねない。そしてベネチアで如実に示されたように、このような問題に同じような大局的見地から対処できる場は、他に存在しないのである。

過去六回にわたる経済サミットが、他の首脳会議のもつ潜在的な陥穽あるいは弱点を若干なりとも回避できたとすれば、それは経済サミットが制度化されなかった点、換言すれば常設の事務局を設置しなかった点に理由の一端があると思われる。経済サミットは、今なお柔軟性を保ち、形式ばらず、各国首脳の要求の変化に対応できる性格を保っている。各国首脳が現在よりも便利で固定的な事務組織を望めば望むほど、サミットは最終審の法廷、すなわち下から順次吸い上げられた問題に最終決定を下す場、個々の具体问题に関する意思決定の場となる危険性が強まることになる。他方で、サミットを単なる一般的協議の場にすぎないとする見解もあり、われわれは、オタワ会議が「過度の制度化」と「一般的協議」との間の妥当な線を見いだすことに貢献し、その中で自由世界の指導者たちが自国と世界の利益のためにサミットを最大限に活用できるように願っている。（省訳）

かつてオタワは妥協の産物であった。こうして小さな材木町からカナダの首都に昇格したオタワは、初めの頃こそ「荒野のウエストミンスター」などとあざけられたりしたが、景観の美しさもあって、だんだん首都らしい風格を備えてきた。

現在では、オタワ川南岸の崖上にそびえる連邦議事堂を中心に、諸官庁、国立芸術センターや国立美術館、人類博物館、それに各国大使館などがそれぞれ威容を誇る立派な都市に発展した。人口は対岸のハル（ケベック州）を含めても七十万をちょっと超える程度だが、数々の文化施設（国立芸術センター）は第一級の劇場で、オペラ・ハウス、劇場、音楽室などを備えている（ヤレクレーション施設、公園に恵まれ、また料理もフランス料理、フランス系カナダ料理をはじめ、ロシア料理、メキシコ料理、アイルランド料理、レバノン料理と各国のものが楽しめる。もちろん日本料理店や中国料理店もある。オタワがオンタリオ州とケベック州の境界に位置し、カナダが主に英国系、フランス系の国民からなり、また連邦政府が英仏両語を公用語にしていることもあって、住民の三割以上はフランス系。大半の人々が英語、フランス語いずれにも通じている。

オタワの中心部をリドー運河がゆるやかに流れて、夏には市民や観光客がボート乗りを楽しみ、冬になるとその上でスケートに興じる。そのわきを自

転車道が住宅地域まで延々と続く。一歩市街を出ると、一、二〇〇エーカーの実験農場があつて牛や豚が飼われ、さまざまな花や野菜が栽培されている。車で十五分も行けば、ガティノーパークの大自然が広がる。

オタワはカナダにおける政治の中心地であるが、未だに鄙びた雰囲気を持たえた、落ち着いた町だ。

しかし、オタワの存在価値は、何とんでもなく首都としての機能にある。センター・ブロック（中央棟）、イースト・ブロック、ウエスト・ブロックか



オタワの日本大使館

らなる議事堂の建物群、議事堂周辺の記念像、最高裁判所、首相官邸、総督府（ガバーンメント・ハウス）、各国大使館や大使官邸が、そのことをよく象徴している。